

ニューアメリカ、学資援助システムを根本的に変革する連邦政府と州政府との
新たなパートナーシップを提案（2月18日）

シンクタンクのニューアメリカ（New America）の高等教育政策プログラム（Higher Education Policy Program）は2月18日、連邦政府及び州政府による学資援助システムの改革を提案した方針書「ゼロからのスタート ～高等教育における連邦政府と州政府との新たなパートナーシップ～（Starting from Scratch: A New Federal and State Partnership in Higher Education）」を発表した。本方針書は、破綻した現行の連邦学資援助システムを廃止して、大学を経済的に手の届きやすいものとし、社会経済的多様性を拡大するために、低所得層学生にとって適正価格の授業料を維持する大学に対して更に多額の学資援助を行うという、連邦政府と州政府との新たなパートナーシップの構築を提案している。具体的な提案事項は以下の通り。

- ・連邦学資ローン、ペル・グラント（Pell Grant）、授業料税控除を全て廃止し、連邦高等教育予算の割当を、教育バウチャー支給方式から特定の方策に対して助成する方式に変更。
- ・学生が負担する住居費、交通費、託児所費用などを抑えると共に授業料を減額。
- ・学生の成果に対する責任を大学が負担。
- ・州政府に対して公立・私立大学の両方に対する支援を奨励。

なお、本方針書は、

<<https://static.newamerica.org/attachments/12616--463/Starting-From-Scratch.78d72818d45e4cf18327b0ff2bd8f85b.pdf>>からダウンロード可能。

New America, STARTING FROM SCRATCH

<https://www.newamerica.org/education-policy/starting-from-scratch/>